



さまざまな人が集まって飲んで食べて、語り合う場を大事にしたいと語る齋藤さん(写真向って右)。「楽楽楽」は山形屋台村ほつとなる横丁入って正面。☎070・5474・8001

夢屋台「楽楽楽(ららら)」代表 齋藤 潤氏

夏の日。夕暮ともなれば、街の一角に灯りがともり、三々五々、人々は、うまい酒と美味しい料理、出合いと会話と涼を求めて足を運ぶ。山形市七日町の山形屋台村ほつとなる横丁。入ってすぐ正面から笑い声が聞こえる。夢屋台「楽楽楽(ららら)」。

「自分の店を持ちたい、という思いを、以前から温めていた」ということですが、

キラリ山形 元気な創業者

バブル崩壊、デフレ時代 一念発起し屋台村で独立

齋藤氏 僕たちの世代(今年41歳になります)はバブルが崩壊し、デフレ経済の直撃を受けました。山形市立商業高校を卒業し、東京の大学に進んだものの、就職難どころの話ではなかった。あらゆる企業に求職願を出しても、返事が来るのはごくわずか。お先真っ暗な日々を過ごして

「ふだんの山形」知るスポットに
— 屋台村は2009年6月に開村

起業への心構えとステップ 具体例を示して分かり易く

女性のための創業セミナー

「欲張り女性のための」創業セミナーが6月28日、山形グランドホテルで開かれ、(株)H. A. Lの溝口暁美さんが、起業への心構えや準備について自らの経験を踏まえ解説した=写真。

溝口さんは2003年、女性のためのビジネス支援コンサルタントとして独立。サロン経営や小売業者への個別支援など多様な経営相談を手掛けるとともに、「夢見る段階から成長戦略まで」をテーマに講演しアドバイスしている。

やまがたチャレンジ創業支援ネットワークが主催するセミナーには、山形商工会議所管内をはじめ、県内で起業を目指す女性30人が受講した。



溝口さんは起業するに当たっての心構え、起業のメリット・デメリットを説いた上で、個人事業主と株式会社の違い、株式会社化の手続き、税金といった基礎的な知識を紹介。「私らしい開業のスタイル」を決めることが大切と指摘した。

そのポイントとして、①起業動機を確かめる②自分の中にある宝物に気づく(自信を持つ)③ビジネスプランを考える(夢をカタチにする)④開業届を出す(形式を整える)⑤強い想いを語る(賛同者を増やす)⑥幸せの連鎖を作る(お金と幸福を循環させる) — の6項目を挙げ、確認することを薦めた。

また、開業に必要な支援メニューを知っておくことが必要と強調。商工会議所など関係機関へ相談すること、創業セミナーやイベントに参加し基礎知識を得ること、やまがたチャレンジ創業応援事業の「助成金」、日本政策金融公庫(国民生活事業)の新規開業資金といったさまざまな融資制度を分かり易く説明した。

(創業に関する問い合わせは山形商工会議所経営支援課まで。☎023・622・4666)



山形まちなかの出会いと賑わいを演出している屋台村

し8年目。齋藤さんの店を含めて12店が、山形のまちなか賑わいを創出しています。

齋藤氏 山形、ことに七日町にとつて、観光を含めて必要不可欠な交流スポットとなっているのではないのでしょうか。「ふだんの山形」を知ってもらおう絶好の場所です。私の店には年間1万人近い方が訪れております。年齢は男女を問わず20歳代から60歳代。学生、サラリーマン、個人事業者、会社の役員さんと千差万別。外国の方も訪れて、焼き鳥、ビールを片手にみんなワイワイ。屋台村の仲

間の店と一緒に、オープンな雰囲気

新たに居酒屋を七日町に開店
— 七日町に新たに居酒屋「喜楽楽(きらら)」をオープンしました。

齋藤氏 1軒目の店は居抜きでしたので、次に出すときは自分が考えたレイアウトにしたいと思っていました。目玉は出身地の山辺町ビッグファームの「舞米豚(まいまいとん)」のカツ。バンド演奏も行っています。独立した時に目標を2つ立てました。ひとつは山形市内に5店舗を持つことです。3年目で1店舗を開くことができました。9月には法人化し、経営基盤を固めます。

青年部に入会し地域に貢献

もう1つは、何らかの形で地域の役に立ちたいということです。屋台村を運営するリノベーション山形の渡辺隆博社長が、私たちに求めている中心市街地の賑わいづくりに貢献したいと思っています。6月に山形商工会議所の青年部に入会しました。日本一の芋煮会フェスティバルをはじめ、山形の魅力を、力を合わせて発信している同世代の活動に刺激を受けていました。

多くの人たちと一緒に考え、行動すれば、素晴らしい場が出来上がると信じています。